

令和6年度地域学校協働本部事業 地域学校協働研修会（会津地区）

福島県教育委員会（会津教育事務所）

〈日 時〉 令和6年8月5日（月） 10:40~14:55

〈会 場〉 福島県会津自然の家

〈参加者〉 34名（地域学校協働本部関係者・児童クラブ関係者・学校支援関係者・学校関係者・行政関係等・事務局）

講演 「多様な地域学校協働活動のススメ（協働活動のWhat・Why・Howの視点）」

講師 榎葉町教育委員会 地域学校協働センター長 猿渡 智衛 様

1 「地域学校協働活動の〇〇」を見つめ直しましょう。

- (1) 地域学校協働活動の内容とは何か。目的とは何か。重要なポイントとは何か。
 - ・どのような事業も協働活動になり得る。多数の多様な地域住民と関わる仕掛けを作り、緩やかなネットワークを作ることが重要である。
- (2) 地域学校協働活動の展開の工夫には何が必要か。
 - ・地域団体等と連携し、子ども達が主体となった活動を企画することが必要。



【猿渡 智衛 様】

2 私のまちの地域や学校の課題解決のための地域学校協働活動を計画しよう。

- (1) グループ討議による、地域課題の共有
 - ・課題解決のための取り組みについて話し合う。
 - ・「学校」でできること、「地域」でできることについて話し合い共有することが大切である。
 - ・地域学校協働活動は、地域の実情に応じて多様な展開ができる、柔軟性の高い事業である。

○榎葉町、鎌倉市での実践事例
○参加者による討議

【受講者の声】

- 猿渡先生の熱い思いが伝わってきて、私も「何かをやりたい、始めたい」という気持ちになりました。「WIN-WINの関係」が大切なのだとお聞きし、このことからたくさんのヒントを得ました。自分ならこんなことができるのではという思いが生まれてきました。
- 学校支援という意識から脱却し、地域づくりという思いをもち、活動を再考していきたいと思います。

講義・演習 「信頼関係づくりのためのアイスブレイク」

講師 福島県会津自然の家 指導員 土橋 雅子 様

1 アイスブレイキングを効果的に進めるポイント

- (1) 同時発声・同時動作
 - ・人は、同じタイミングで言葉を発したり動作をしたりすることを通して、周囲の人とひとつになったような安心感を覚える。こうした心の仕組みを利用して、よい雰囲気を作る。
- (2) 一指示一動作
 - ・レクリエーション活動の楽しみ方を幾度かに分けて説明する。原則一度の説明で一つの目標を伝える。



【土橋 雅子 様】

2 集団作りを意識した体験活動

- ・ファシリテータと個→個と個→ペア→グループ→集団と、少しずつ活動を広げ、達成感を味わわせることで、集団の一体感が広がっていく。

○当日行ったレクリエーション活動について
・同じところ探し ・デザート争奪戦 ・ネームトス
・フープザループ ・パスデーライン 等

【受講者の声】

- 単純な動き、遊びを通して、相互の壁を越えて心を通わせていく活動が楽しく、多くの学びがありました。
- 土橋先生の進め方がとても楽しかったです。間違っても褒めながら進めてもらったので、自分を出すことができました。小学生になった気持ちで、まわりの皆さんと楽しむことができました。自分の講座でも是非参考にしたいと思います。